

P1-006

乳幼児の基本的生活習慣の歴史からみる獲得（１）—不変型の要因—

鷲見 裕子¹⁾、宮崎 つた子²⁾、川瀬 浩子³⁾

高田短期大学 子ども学科¹⁾、
三重県立看護大学²⁾、
三重県立看護大学 地域交流センター³⁾

【目的】近年、子どもを取り巻く環境が変化している中で、子どもの基本的生活習慣の乱れや養育者の育児不安など多くの課題がみられる。本研究は保護者への獲得状況調査より、現在の乳幼児の基本的生活習慣獲得の実態を把握するとともに、1935年と2003年の先行研究調査¹⁾と2016年調査（以下本調査）の年代による獲得割合を比較し、3調査で変化がみられない（以下不変型）項目の要因について検討した。

【方法】2016年8～10月にA県内79園の幼稚園、保育園、認定こども園の1～5歳児クラスの保護者（3545人）を対象に、「食事」「排泄」「着脱衣」「清潔」「睡眠」5つの基本的生活習慣について、先行研究¹⁾と同様の質問項目で一部用語を現代にあった表現に変えた無記名自記式調査を実施した。結果より、1歳から標準年齢（同一年齢区分の70-75%が達した年齢）に達するまでの3調査の獲得割合の差が、本調査から30%以内を不変型、30%を超えるものを変化型とし、その要因を検討した。また、先行研究¹⁾で明らかになっている25項目中、我々の定義に当てはまる21項目を分析対象とした。倫理的配慮は調査用紙に明記し、提出を持って承諾とした。なお、所属大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】分析対象は2312人（有効回答65.2%）で、回答者は女性がほとんどで、年齢は30代が62.9%、30～40代で84.6%を占めた。対象の子どもは3歳未満児が15.3%、3歳以上児が84.7%であり、男女ほぼ同数であった。3本のグラフ推移に着目した結果、不変型を示した項目は7項目であり、獲得割合が90%程度まで年代をおって直線的なグラフを示した。内訳は、「清潔」の「顔を拭く」、「顔を洗う」、「鼻をかむ」、「朝の歯磨き」、「手を洗う」、「髪をとかす」の6項目と「排泄」の「夢中粗相の喪失」であった。

【考察】不変型は水道の普及や洗面台や蛇口形状の変遷、紙おむつの向上、しつけに関する情報収集手段などの生活環境や、清潔、おしやれに対する保護者の意識等の外的要因の変化より、習慣獲得に必要な子どもの運動や認知の発達という内的要因の方が大きい習慣と考える。

【結語】乳幼児の基本的生活習慣の年代による獲得割合を70年間の歴史からみて変化していない習慣の獲得は、生活環境や道具などの影響よりも、子どもそのものの発達が大きな要因であると考えられた。

1) 谷田貝公昭他：データでみる幼児の基本的生活習慣 第3版、一藝社

P1-007

乳幼児の基本的生活習慣の歴史からみる獲得（２）—変化型の要因１—

鷲見 裕子¹⁾、宮崎 つた子²⁾、川瀬 浩子³⁾

高田短期大学 子ども学科¹⁾、
三重県立看護大学²⁾、
三重県立看護大学 地域交流センター³⁾

【目的】乳幼児の基本的生活習慣の歴史からみる年代による獲得割合について、1935年調査および2003年調査の2つの先行研究調査¹⁾と2016年調査（本調査）で、1935年調査結果から変化している項目の要因を検討した。

【方法】方法は、第1報の「乳幼児の基本的生活習慣の歴史からみる獲得時期—不変の要因—」（以下第1報）と同じである。本研究では各調査結果が示す3本のグラフ推移から、1935年調査結果から変化している項目に着目して、その要因の検討を行った。

【結果】調査用紙の配布数、回収数、回収率および対象の基本属性結果は第1報と同じである。1935年調査と2003年調査および2016年調査（本調査）の結果が示す3本のグラフ推移に着目した結果、1935年調査結果から2000年代以降の調査結果で、年代による獲得割合が変化している項目は9項目あった。9項目の内訳は、「食事」では「箸と茶碗を両手で使用」、「箸を正しく使う」の2項目、「排泄」では「排尿排便の予告」、「大便時間が一定」の2項目、「着脱衣」では「着衣の自立」、「脱衣の自立」の2項目、「清潔」では「就寝前の歯磨き（習慣）」、「うがい」、「石鹸の使用」の3項目であった。これらの9項目の中で早くなったのは「着脱衣」と「清潔」、遅くなったのは「食事」と「排泄」の項目であった。

【考察】1935年調査の時代から2003年調査までの約70年の歴史では、1978年に水道水普及率90%の衛生整備の発展、2009年の新型インフルエンザの流行、8020運動などの様々な時代的背景が生活そのものに影響を与える要因と思われる。年代による獲得割合が早くなった「清潔」では、これらの背景に影響を受けながら親の意識の変化が要因の一つと思われる。また、ポンプ式の石鹸などの道具の開発、着物からパジャマへの衣類の形態の変化が着脱しやすさに影響していると考ええる。遅くなった「食事」では、食具の開発で箸を使わなくても食べられるスプーンやフォークの活用、「排泄」では、布おむつから紙おむつへと変化し、さらに紙おむつは不快感の少ない素材へと改良されたことが要因の一つと考えられる。

【結語】乳幼児の基本的生活習慣の年代による獲得割合を約70年間の歴史からみると、その要因としては、使用する道具の改良や形態の変化が影響していると考えられた。

1) 谷田貝公昭、高橋弥生：データでみる幼児の基本的生活習慣 第3班、一藝社。